

## 武蔵野市の将来を考える市民会議 話し合いのフレーム案

| 回   | フレーム                                    | 要旨   | 区分               | 第一回委員会からの委員意見要旨（キーワード）  |
|-----|---|--|------------------|---|
| 第二回 | 第一の視点<br>現在まで築かれてきたものを「使う」「保つ」「継承する」    | *ハードからソフトへ<br>*市民と行政の協働（情報の共有）<br>*少子高齢化<br>*経常経費の抑制（市税・財政のバランス保持）<br>*行財政運営                             | 少子高齢社会           | *少子高齢化対策 *若年層が生活しやすいまち<br>*持続可能な社会 *若者の活力<br>*高齢者が生き生きと暮らすための収入確保<br>*高齢者の活動への支援と医療介護の負担軽減 *子育て支援<br>*高齢者の経験を活用しつつ若者の力を発揮できる仕組み<br>*女性が背負う介護を地域ぐるみで                         |
|     |   |  | 行政運営<br>財政問題     | *民間企業の誘致(財源確保) *産業育成 *新たな顧客の創造<br>*市税・財政のバランス保持 *単年度ではない会計制度 *投資の優先順位<br>*経常経費の抑制 *経済至上ではないまち<br>*都・国に頼らず自立の方向を⇒税収のアップ<br>*産業と消費者市民のバランス<br>*行政改革 *政策評価 *事業仕分け *PDCAサイクルの確立 |
|     |   |  | 市民自治<br>市民と行政の協働 | *市民と行政の協働<br>*市役所と市民が知恵と力を出し合い切磋琢磨して築く<br>*各主体の自由な討議 *市民社会の形成<br>*市民自らが、自らのまちを、自らの手で育てていくことが市民自治の基本<br>*市民参加の経験を積み、また意欲をもつ優秀な市民・市職員のコラボ                                     |
| 第三回 | 第二の視点<br>リスクを回避して持続可能な社会を自助・共助・公助で「支える」 | *地域力<br>*子育て支援<br>*介護サポート<br>*環境問題（シンクグローバリイ、アクトローカリイ）<br>*男女共同参画<br>*平和                                 | 地域の活力<br>コミュニティ  | *地域力 *市民同士の交流 *簡単ではない協働<br>*市民自らが主体的に活力を持ってすごせる市<br>*地域の一員としての自覚 *人と人の絆がエネルギー   |
|     |   |  | ライフスタイル<br>教育    | *男女協働参画 *男性の地域コミュニティへの関わり<br>*男女や年齢に制約がなく、生き生きと暮らせるまち<br>*ワークライフバランス<br>*働く女性が自分を犠牲にすることなく子どもを産み育てられる環境<br>*青少年教育 *生涯学習   |
| 第四回 | 第三の視点<br>新たな都市像<br>都市文化を「創造する」          | *新しい事業を作る（武蔵野発の産業育成、企業誘致）<br>*若者の力を活かす<br>*まちへの愛着（武蔵野市民という意識）<br>*吉祥寺・三鷹・武蔵境三駅周辺環境整備<br>*自転車<br>*まちづくり条例 | 都市基盤<br>都市リニューアル | *吉祥寺駅周辺の更なる発展(南口の再整備) *武蔵境駅周辺整備<br>*三鷹駅環境整備 *土地の有効活用 *都市計画<br>*自然と人間が大事にされるまち *ハモニカ横丁の整備<br>*自然の回復 *環境 *上下水道の維持管理   |
|     |   |  | 憧れのまち<br>愛着のあるまち | *武蔵野市民という意識 *まちへの愛着 *笑顔の絶えないまち<br>*グローバル・地域の視点と自発的に取り組む姿勢<br>*誰もが憧れる市民でつくった市 *引き継ぐ伝統や文化<br>*持続可能な明るい武蔵野市の未来<br>*苦難の中で創っていく未来像<br>*特色、独自風景のあるまち                              |
| 第五回 | まとめ                                     | 2～4回の話し合いの中から、最も重要なポイントを抽出する   |                  |   |